



# Jaws レポート 66

Japan Animal Welfare Society

発行人：山下眞一郎  
編集人：桜井邦広  
“”：山口千津子  
編集協力：平山企画舎



発行 / 公益社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-8 中村屋ビル内 TEL(03)5740-8856 FAX(03)5496-0930 http://www.jaws.or.jp

▶ WSPA（世界動物保護協会）  
は石巻のシェルター建設を資金援助しています。本部のある英国から来た取材チームが、早坂センター長にインタビューしていますが、このアレンジは全て当協会が行っています。

## 東日本大震災



一時帰宅ペット保護受付

福島県の一時帰宅に伴い救出希望の犬猫や救出された犬猫の一時保護を中継基地で救援本部のチームが受け付けている。



郡山市に届けられた救援物資

### 被災動物救援活動 経過報告



3月11日の震災勃発を受けて、翌12日には環境省の要請もあり、緊急災害時動物救援本部（以下、本部）を立ち上げました。以来本部の構成団体である当協会・日本動物愛護協会・日本愛玩動物協会・日本獣医師会の4団体が一致協力して被災地の動物救援活動

### 一時預かり先斡旋を担う

14日には緊急会議を開いて各自の作業分担を確認し、早速義援金の募集、ペットフードや用品業界に支援を要請いたしました。当協会は現地での救援活動はもとより、ペットの一時預かり先の斡旋や海外の動物愛護団体からの協力支援の窓口などを担当することになりました。ペットフード協会からフードのご提供をいただいたものの、被災地の道路は寸断され、当初は輸送手段としての車や運転手の手配がつきませんでした。都内の篤志家がご提供下さった空家を物資の集積地として、各地にフードなどを順調に届けられるようになるまでに3週間程度かかりました。その間当協会は救援本部を代表する形で、民主党の環境部門会議や「法改正を検討する議員連盟」の総会などに出席し、活動状況を報告すると共に、多くの問題点の解決を要望していました。

海外からはWSPAやHISをはじめ、香港の動物愛護協会や個人などから寄附の申し出が寄せられ、同時に現地視察や支援策の打ち合わせなどの要望が相次ぎ、当協会が全て対応しております。

### 被災地に入つてのサポート

4月に入り、山口職員は盛岡・仙台・福島等に出張し、県の職員や獣医

### 当協会としての取り組み

「東日本大震災」被災動物救援活動 …… 1～3  
「上げ馬神事」のその後 ……  
支部だより（徳島） ……  
ヒューメインセンタージャパン（HCCJ）事業 ……  
法改正に向かって……  
第52回作文コンテスト案内……

5 4 4 4 3 3

義援金募集／エッセイ（内田恭子）……  
定時会員総会議事録／お知らせ……  
捨て犬・捨て猫防止キャンペーン（福岡県）……  
寄付者ご芳名／事務局から……  
ジョーズジュニアコーナー……

8 7 6 6 5 5

次号は12月発行の予定です。

この一時帰宅に伴つて救護される動物たちの数は当初は1日20頭近くに上り、福島のシェルターの収容能力を上回るところから、救援本部としては福島での第2、第3のシェルター建設を環境省や県側と検討することにし、候補地等の現地調査に入りました。

このタスクフォースチームには当協会から山口職員を中心に菅野職員及び桜井事務局長が参加し、現場と後方支援それぞれの分野で中心的役割を担っております。

この一時帰宅に伴つて救護される動物たちの数は当初は1日20頭近くに上り、福島のシェルターの収容能力を上回るところから、救援本部としては福島での第2、第3のシェルター建設を環境省や県側と検討することにし、候補地等の現地調査に入りました。

### 一番目のシェルターの具体化

7月、第2シェルター建設や東京都の被災動物一時預かりシェルター建設のプランが具体化すると共に、継続的に運営に要する人員整備の問題が浮上、タスクフォース隊員の増員やボランティアの募集を決定、地元の雇用促進を大前提としながら、有経験の人材募集活動を広く展開しています。

5月には、警戒区域への住民の一時帰宅が実施されるに伴い、救援本部として福島タスクフォースチームを編成し、中継基地で、救出された動物たちをシェルターへ或は獣医師病院に収容する役割を担いました。

このタスクフォースチームには当協会から山口職員を中心とする職員及び桜井事務局長が参加し、現場と後方支援それぞれの分野で中心的役割を担っております。

この一時帰宅に伴つて救護される動物たちの数は当初は1日20頭近くに上り、福島のシェルターの収容能力を上回るところから、救援本部としては福島での第2、第3のシェルター建設を環境省や県側と検討することにし、候補地等の現地調査に入りました。

6月に入つて、岩手県や宮城県の動物救護活動が安定してきたものの、福島は原発問題もあり、対応の遅れが目立ち始めました。救援本部はタスクフォースチーム用の宿舎を確保し、現地に張りつく形でシェルター運営を支援すると同時に、第2シェルターの建設に向けて県や獣医師会との合意形成に努めました。一方作業の長期化に伴うチーム員の疲労や被曝量の問題も起これり始め、線量計の携帯やスタッフのローテーション制の確立などを励行し、作業用車両の購入やボランティアを含めた補償問題の検討なども実施しています。



臨時シェルター

臨時シェルターは第1シェルターが満杯状態になり、第2シェルターの建設が遅れていることから、救援本部として第2シェルターの近くに緊急に建設したもの。救援本部の新しいロゴが窓に張られている。

義援金約5億円

7月末時点での義援金総額は約5億円に達しましたが、救援本部ではほぼ

議、問題点の対策を協議するなど、4回毎週会議を開催して義援金申請の審査団体が結束して奮闘しております。当協会の兵藤理事も福島県の一時帰宅に伴う動物救護活動に志願され、暑い中を防護服に身を固めて20km圏内で救出活動に当たられました。

8月上旬には、本部として義援金を支援してきた石巻のシェルターが改築移転しました。県道の高架下の広い土地に、2階建てのプレハブ2棟と平屋1棟、テント張りのフード置き場やドッグランなどが設置され、市の獣医師会がボランティアの方々と共に運営を担っています。現在約100頭の犬猫が収容されていますが、のびのびした理想的な環境で、新しい飼い主探しの活動も進められていて、将来的には宮城県のシェルターに吸収される形で順調に稼動しております。

一方 1000万円ほどの義援金を寄付して頂いたWSPAロンドン本部からは、8月上旬に被災地取材チームが派遣されてきて、石巻や福島のシェルターの様子をVTRに収めて帰りました。4日間にわたる取材ツアーレンジやインタビュー相手との交渉などは全て当協会が対応し、WSPAからは非常に感謝されています。このように当協会と致しましては日常活動に加えて主力メンバーの現地対応や、特に福島タスクフォースの作業に当たっており、3月以来、てんてこ舞いの超多忙が続いておりますが、この未曾有の大災害で被災した動物たちを1頭でも多く救うために、スタッフ全員が休日も返上して奮闘しております。



20km圏内からの犬猫救出

島第一原子力発電所事故の先行き  
がいまだ読めず、被災動物の救護・  
保護が今も続いております。

その活動の一環として、福島県内で緊急災害時動物救援本部（以下救援本部）が関わっているものに、東京電力福島第一原子力発電所20km圏内の住民一時帰宅に伴う動物保護支援があります。

を巡回し、確保された動物を保護すると同時に、残されている犬猫のために給餌もして来ます。ペット保護班は、福島県を始め全国の自治体から動物の保護を専門にしていらっしゃる方が集まり構成されていますので、飼い主のわからぬ放浪動物が保護されることも間々あります。保護された動物は、福島県の動物ノエレッタへ、

拠点は開拓する皆さんのご協力で、風通しの良い場所にケージを置いて頂くなどして飼い主さんの取りを待ちます。

に緊急災害時動物救援本部も立会っています。8月下旬までに各住民にとって1度目の一時帰が終了する予定です。8月10日在、このスキームで保護された物は8月初旬で犬猫合わせて500頭です。

4月28日からの5日間で福島県によつて20km圏内から救出され犬猫、及び一時帰宅に伴つて

か帰ててちは宅現動約保たた県  
現在のシェルターの過密状態を解消し、飼育環境を改善するため、に、県獣医師会会員動物病院や近隣獣医師会所属病院にも動物を預かっていました。また、救援本部でも改善のお手伝いをすべく、第2シェルター近くに、救援本部直轄の臨時シェルターを開設し、馬場獣医師が中心となつて、主に20km圏内から救出された犬猫を保護しています。ここではすでに犬30頭、猫33頭を保護しており、すでに満杯状態になつております。

動物に十分なケアを与えるには人手が必要ですが、福島県のシェルターでも、救援本部のシェルターでも人手が足りません。できるだけ多くの方にボランティアとしてお手伝いいただければと思いま

第二章 新身教

一時帰郷に獣主の犬を捨ててハサイを食い主。この後、飼い主が保護した犬や猫を県職員が依頼者の家をまわつて保護する。



一時帰郷に獣主の犬を捨ててハサイを食い主。この後、飼い主が保護した犬や猫を県職員が依頼者の家をまわつて保護する。

卷之三

A black and white photograph showing a group of approximately ten individuals in full-body white protective suits and respirators. They are gathered around a person lying on a stretcher in a dark, cluttered room that appears to be a basement or a storage area. One person in a suit is kneeling over the individual on the stretcher, while others stand by. The scene suggests a medical emergency or a simulated scenario in a controlled environment.

犬のクリーニング